

平成30年度 第4回細谷小学校学校運営協議会 議事録

1 開会あいさつ

2 あいさつ 学校運営協議会会長

- ・今回は委員の要望に応じていただき、給食試食、授業参観と同日開催にさせていただき、ありがたい。

校長

- ・学校祭の時にケーブルテレビの撮影が入ったり、橋本地区老人会の方を迎えて昔遊びをしたりするなど、前回の協議の意見を生かすことができている。今回も様々な意見を出していただきたい。

3 協議 進行 教頭

(1) 小規模特認校としての充実を目指して

① 学校運営協議会の考える、細谷小学校の今後について

- ・校長の幼稚園・保育園での細谷小紹介などを経て、来年は、現時点で1年生が10名、転入予定者が1名あり、総勢51名で始まる予定である。
- ・校長先生のPRや口コミの効果はとても大きい。
- ・来年度は、ランチルームで全員での会食が難しくなり、現在検討中である。
 - 西校舎の家庭科室で給食も可能ではないか？（家庭科室と現3年教室）
 - 給食の食缶等を運搬車から入れられるつくりになっていない。
- ・前回の協議内容を学校だより「いきいき細谷っ子」11月号で確認し、協議を継続する。

【確認事項】

- ・中学校で大きな学校に行くことに不安をもっている保護者もいる。
- ・細谷小が将来なくなるなど、誤った情報がブレイキになっている。
- ・これから細谷小に入る小さな子をもっている保護者によく理解してもらいたい。
- ・ケーブルテレビで行事など学校案内を放送してもらえるとよい。
- ・昔の遊びなど、老人会でお手伝いできる。
- ・見守りボランティアも、もっと参加してほしい。できるときに、できる方が…
- ・今日の給食では、試食会の保護者がコートを着てランチルームに入ったことが気になった。保護者に対してでも、コートを脱いで入室するよう言うことは必要と思う。そういうならいは伝えていきたいものだ。
- ・小規模特認校について、宇都宮市立城山西小学校の取組を宇大の学生の研究論文があったので、資料として持参した。

10数年前、統廃合の恐れがあったが、団地を造成し住宅が増えたことや地域の方の主導の放課後スクールの魅力も大きく、区域外（小規模特認校制度利用）の児童が増え、複式学級を解消し児童数が増えている学校である。学校とその周辺を見てきた。

別紙「小規模特認校制度 ～大規模校小学校における実践モデルの提案」

(宇都宮大学国際学部中村祐司研究室 石田奈津美 大橋友梨 長谷川遙)

○城山西小学校の特色あるカリキュラム

会話科、文化人の先生による授業、放課後活動など、またこれらの取組の実施にあたっては、城山西小学校を活性化させようという地域住民の協力が大きな役割を果たしている。 → 学校お任せでない地域住民の力

- 小規模特認校制度指定は平成17年。平成21年度までに複式学級が解消されなければ統廃合。
- 特色ある取組は、会話科、地域の特性を生かした活動、放課後活動
- 樹齢400年のシダレザクラ「孝子桜」があり、2万人来校する「古賀志の孝子桜祭り」が開催される。→細谷小では、初代公選栃木県知事小平重吉さんをアピールすることができるのではないかと。
- 「こがし桜スクール」(放課後活動とサタデースクール)が充実しており、現在は、「こんな学校に通わせたい。」と思われる学校である。
- 地域の支援体制がしっかりできていて、学校を応援する会がある。児童の居ない世帯も学区内の全世帯からのPTA会費の徴収(細谷小は賛助会費の納入)、団地の建設など、地元の人も学区外の人でもどちらも増えるための動きをしてきた。→市街化調整区域等、本校の場合は住宅地にならない場合が多い。その中でも、住宅の増えている区画あり。
- 小学校教育の中で大切なことは、多くの人とのふれあいや様々な体験を児童に与えること。様々な人間関係を築き、その中で協力することの大切さ、思いやりの心、コミュニケーションの力を自然と身に付けさせる。既存の教科学習だけでなく、心や体を動かす様々な体験が大切。
- 「会話科」の授業では、児童一人一人が自分の意見を口に出し、実に活発に参加している。これらの城山西小の取組を、小規模校だから可能であると言い切らず、他の学校も取り入れていくべき。
- 「いきいきと授業に参加する児童を見て、将来こんな学校に子どもを通わせたいと思った。多くの学校関係者、児童と保護者、地域住民が城山西小の取組を知り、それらが徐々に他の学校に浸透していったほしい。

- ・他に、栃木市の国府南小の学校フェンスの看板も参考になる。
- ・栃木市では、児童数が増えている学校もあれば、小規模特認校の指定がなくなったところもある。
- ・細谷小も特色ある取組がかなりあると思うが、それを(この城山西小の取組のように)まとめてもよいのでは?
- ・以前、北海道の元校長の方から、問い合わせがあり、学校見学を受けたことがあった。
- ・こういうテーマは、研究しやすいのだろうか。
- ・地域主導で、建物を建てて受け皿をつくったとのこと。
- ・児童を預かってくれる学童保育は、ニーズが高いだろう。細谷に以前あった学童保育は、2名になったときに打ち切りになった。
- ・細谷小には学童保育がないので、預かりを希望する家庭は、石橋小の学童保育に行くことになる。現在1名利用。
- ・国分寺西小は、これまで使っていた学童保育がそのまま残り、国小からバスで西小学童保育に戻り、そこで過ごすことになる。
- ・学童保育の担当者は有資格者か。
→学童保育は下野市の設置であり、細谷でボランティアで実施するとなるとどのような準備が必要か、探っていくことも必要になるだろう。
- ・古山小の学童保育にボランティアで手伝いにいくことがあるが、児童の動きに追いつくことが大変。
- ・事故等はあってはならないことだから、預かりの難しさはそういうところにもある。
- ・(細谷小でも)放課後の活動ができるようになるとよい。遊びながら英会話をする。英語を学ぶなど、できればよいと思う。また、遊びを提供できるとよい。
- ・子ども会のドッジボールの練習など、そういう機会では学校に集まったの活動がなされており、放課後の活動の一つであると感じた。

- ・(細谷小も様々な特色はあるが) まだ特色は深まっていない。
- ・放課後の活動が、学力向上につながるとよい。
- ・今年から、あやめ地区の方が、兄弟で2回迎えに来ることを避けるため、金曜日に、1時間学校で預かりをしている。その対応は、保護者等がボランティアで担当してくださっている。31年度は、月曜日が一斉下校ではなくなるので、同じように預かりの必要性が出てくる。何らかの対応を探りたい。
- ・地域の方達のボランティアで、放課後スクールが運営できるのはすごいこと。見守りボランティアも、毎日していただいていることに大変ありがたく思う。ボランティアを継続することは、本当に大変なことと思う。
- ・実際見守りを始めると、道路工事中でもあり、危険な中を通学していることがわかった。早く歩道だけでもできるとよい。
- ・現在工事中の道路が完成したら交通量が増える、スピードが上がるといった心配も生まれるであろう。その時には、また見守りの必要が増えるかもしれない。
- ・最近、橋本地区の農道に歩行者用信号が設置された。児童のためには壬生一笹原線にも信号があるとよいが、なかなか設置は難しそうである。(運営協議会でも話題。自治会としても何度も申請しているが難しそうである。)
- ・来年度に向けて放課後の活動ができるためには、ということについて、さらに協議していけるとよい。
- ・行事や登下校中に接する児童の様子は、きちんとしている。
- ・橋本地区老人会の方が来校した時は、竹馬、缶ぽっくり、紙飛行機、あやとり、お手玉などをした。1・2年生は初めての遊びを楽しみ、老人会の方も楽しんでくださった。

(2) その他

- ・この後、全学年の授業参観
- ・学校評価アンケートの依頼
- ・次回の協議会では、放課後活動を推進するための方策についてと今年度の協議のふりかえり

4 今後の予定

- | | |
|------------------|-----------|
| (1) 細谷っ子お助け隊感謝の会 | 12月18日(火) |
| (2) 校内音楽鑑賞会 | 12月20日(木) |
| (3) 出前教育委員会 | 1月18日(金) |
| (4) 第5回学校運営協議会 | 2月19日(火) |
| (5) 細谷小学校卒業式 | 3月19日(火) |

6 閉会